

NewsLetter

知的財産センター活動報告

ご 報 告

発明奨励費授与者が決定しました！

2010年度、「発明奨励費」を創設しました。発明奨励費とは、本学において知的財産活動に貢献した研究者に対して付与する奨励費のことです。発明奨励費には、発明新人奨励費（本学において初めて特許出願等をした教員に対して付与する奨励費）と、発明功労奨励費（本学の知的財産活動に貢献した教員に対して付与する奨励費）の2種類があります。

2010年度のそれぞれの奨励費授与者は以下のとおりです。

発明新人奨励費
理工学部 岩澤 哲郎
理工学部 藤原 学

発明者
理工学部 岩澤 哲郎
理工学部 藤原 学

発明功労奨励費
理工学部 河嶋 壽一
理工学部 三浦 雅展
理工学部 山添 誠司

発明者
理工学部 河嶋 壽一
理工学部 三浦 雅展
理工学部 山添 誠司

ご 報 告

2010年度特許出願状況

2010年度は、合計18件の特許出願がありました。（2011年3月31日現在）

なお、発明の名称・内容等は、出願日から約1年半後に公開（特許庁ホームページ）されます。

No.	発明者	出願番号	出願日	出願種別等
1	理工学部 栗井 郁雄	特願2010-110666	2010.05.12	単独出願
2	理工学部 藤原 学	特願2010-112229	2010.05.14	共同出願
3	理工学部 三浦 雅展	特願2010-161346	2010.07.16	単独出願
4	理工学部 山添 誠司（代表） 理工学部 和田 隆博	特願2010-170331 PCT/JP2010/073700	2010.07.29 2010.12.28	単独出願
5	理工学部 和田 隆博（代表） 理工学部 山添 誠司	特願2010-198000 PCT/JP2010/065159	2010.09.03 2010.09.03	共同出願
6	理工学部 植村 渉	特願2010-241405	2010.10.27	単独出願
7	理工学部 山本 伸一	特願2010-245233	2010.11.01	共同出願
8	理工学部 三浦 雅展	特願2010-269827	2010.12.02	単独出願
9	理工学部 岩澤 哲郎	特願2011-003507	2011.01.11	単独出願
10	理工学部 石崎 俊雄（代表） 理工学部 栗井 郁雄	特願2011-041009	2011.02.26	単独出願
11	理工学部 山添 誠司（代表） 理工学部 和田 隆博	特願2011-026678	2011.02.10	共同出願
12	理工学部 岩澤 哲郎	特願2011-021239	2011.02.02	単独出願
13	理工学部 三浦 雅展	特願2011-020266	2011.02.01	単独出願
14	理工学部 三浦 雅展	特願2011-030291	2011.02.15	共同出願
15	理工学部 木村 隆	特願2011-040458	2011.02.25	共同出願
16	理工学部 藤原 学	特願2011-044879	2011.03.02	共同出願
17	理工学部 富崎 欣也	特願2011-051229	2011.03.09	単独出願
18	理工学部 石崎 俊雄	特願2011-068085	2011.03.25	単独出願

ご 報 告

JSTの外国特許出願支援制度に採択されました！

2010年12月28日、本学で初めて、独立行政法人 科学技術振興機構（略称JST）の特許化支援事業である外国特許出願支援制度を利用してPCT出願を行いました。

本制度は、大学・TLO等（国公私立大学・承認TLO・大学共同利用機関・高等専門学校）の研究成果の権利化を推進するために、外国特許の取得に向けての出願等を、費用支援と特許主任調査員（民間企業等において長年にわたり研究開発に従事し、その成果を製品化まで発展させた実績を有するなど、研究開発、特許業務に豊富な経験を有している）による目利きにより総合的に支援するものです。毎年、1,000件を超える申請がある中、採択率は概ね60%です。

採択された案件は、理工学部 山添 誠司 助教（代表発明者）および理工学部 和田 隆博 教授の発明（上記2010年度特許出願状況表のNo.4）です。

今後も本制度の活用により、大学の活性化、研究成果の技術移転の促進が期待されます。



ご 報 告

「明治大学／龍谷大学 新技術説明会」を開催しました！

2010年12月3日（金）、独立行政法人 科学技術振興機構（略称JST）と、明治大学、龍谷大学主催の新技術説明会を、科学技術振興機構JSTホール（東京・市ヶ谷）で開催しました。

本説明会は、それぞれの大学より、企業関係者を対象に実用化を展望した新技術などについてご講演いただくものです。

本学からは、以下の先生方をご講演いただきました。（発表順）

理工学部 粟井 郁雄 教授 「線路または共振器間結合を用いたワイヤレス給電」

理工学部 植村 渉 助教 「ワイヤレス通信技術を用いたシステム開発」

理工学部 和田 隆博 教授 「高い電気伝導性を有するCu-Nb-O系p形透明導電酸化物薄膜」

本技術説明会へは、100名を超える企業関係者の方の申込みがあったことから、非常に注目を集める技術内容であることが伺えます。今後も知的財産センターでは、期待される先端技術を積極的に社会へ発信していきます。

お知らせ 「2011年度 知的財産セミナー」を開催します！

文系学部生向け

日 時：6月8日（水）10：45～12：15

対 象：本学学生および教職員等

場 所：深草キャンパス

テマ：「中国における模倣品の現状と対策」（仮称）

講 師：中科院専利商標代理有限責任公司 日本事務所

張 立岩 氏

理系学部生向け

日 時：11月頃

対 象：本学学生および教職員等

場 所：瀬田キャンパス

テマ：未定

講 師：未定

詳しく決まり次第、知的財産センターホームページ(<http://chizai.seta ryukoku.ac.jp/>)や学内掲示にて広報していきます。ご関心のある方は、是非ご参加ください。

知財トピックス(第6回)「日本版フェアユースについて」

著作権法は、その法目的として、「（前略）文化的所産の公正な利用に留意しつつ、著作者等の権利の保護を図り、もって文化の発展に寄与する」ことを規定しています（著作権法第1条）。著作権者には、自己の著作物を出版、上演、放送等の方法により利用することに関する排他的、独占的な権利が与えられますが、公正な利用の観点から、著作権者の権利に一定の制限が課されています（著作権法第30条～第47条の8）。

現在の権利制限は、限定列举形式の個別権利制限規定になっています。たとえば、著作権法第30条は、「私的使用のための複製」が権利制限を受けることを規定しています。個別権利制限規定は、社会的な必要性が認められると、立法手続を経て著作権法を改正し、制限条項を追加する形を取ります。最近の平成21年度の著作権法改正では、インターネット関連の権利制限条項がいくつか追加規定されました。たとえば、「送信可能化された情報の通信元識別符合の検索のための複製等」には著作権者の権利が及ばない旨が規定されました（著作権法第47条の6）。これは、Googleなどのインターネット情報検索サービス事業者が、利用者からの求めに応じてインターネット上の情報のURLを検索する際に、自己のサーバーに情報を収集・蓄積することや、利用者からの求めに応じて蓄積した情報をネット配信することに著作権が及ばないことを規定するのですが、条文は700文字近くあり、内容も非常に複雑で容易に理解できるものではありません。

このように、IT時代における著作物の利用を円滑に進めるためには、絶えず権利制限条項の見直しと追加が必要になります。法律の改正に手間取るだけでなく、法律の規定が複雑怪奇なものになってしまふおそれがあります。そこで、近年「日

本版フェアユース」を導入しようという意見が強まっています。

フェアユースを直訳すれば「公正な利用」であり、著作権法の法目的に詠われている文言そのものですが、ここでいうフェアユースは米国著作権法にその源流がある独特の用語です。米国特許法は、日本と同様の個別の権利制限規定も設けていますが、普遍化した一般規定としてフェアユース条項が定められています（米国著作権法107条）。詳細は省略しますが、4つの基準を満たす場合にフェアユースが認められ、批評、解説、ニュース報道、教授、研究または調査等を目的とする著作物の利用は著作権の侵害とはならないと規定されています。これに類似する規定を、著作権法に導入しようというのが「日本版フェアユース」です。

著作権法を管轄する文化庁の審議会の報告書が今年初めに出されて、法改正の方向が見えて来ました。報告書では、A～Cの3つの類型を挙げて、フェアユースの対象とすることを提言しています。A類型は著作物の付隨的な利用、B類型は適法利用の過程における著作物の利用、C類型は著作物の表現を享受しない利用であると解説されており、このような利用形態は権利侵害に該当しないことを包括的に規定することが提案されています。

平成23年度の通常国会で成立するとの見通しもありましたが、最近の状況では法改正は少し先のことになりそうです。著作権法の規定をこれ以上複雑化させずに、著作権の保護と著作物の利用とのバランスを取る法制度の整備が望されます。

知的財産アドバイザー 櫻井 雄三

龍谷大学知的財産センター

NewsLetter ニューズレター
知的財産センター活動報告

編集・発行

知的財産センター事務部

瀬田学舎RECホール1F／内線7832

<http://chizai.seta ryukoku.ac.jp>